ＧＤウォール工法 講習修了書用チェックシート

●耐震改修設計・施工説明書で、ＧＤウォール工法をご理解して頂いたか、確認欄にチェックしてＦＡＸして下さい。

ＧＤウォール工法について

1.適用範囲　〈レ点確認欄〉

・建防協発行「木造住宅の耐震診断と補強方法」2004 年・2012 年版の適用が可能な専用住宅及び併用住宅で、木造軸組工法、伝統工法及び立面的混構造の木造部分、平屋から３階迄、延べ床面積 500 ㎡以下とする	

2.適用条件

・①壁の片面補強用、②室内側の壁補強用、③1 階において、補強壁の直下に基礎があること、④両端に柱があること、⑤上下に横架材があること、⑥上下隙間が次の寸法以内におさまること、上隙間 310（250）㎜・下隙間 155m、⑦柱サイズが 105 角以上又は 90 角以上、⑨壁の連続配置の制限条件を満足すること。	

3.設計

・引き抜き耐力が 8.5ｋN を超える場合、同梱の GD コーナーはほぞ補強金物として取付け（引き抜き耐力０ｋN と扱う）、別に、引き抜き耐力相当の柱頭・柱脚金物を設置しなければならない。※耐力の足し算できない	

4.設計・施工

・GD ウォール工法に使用する構造用合板は、JAS 規格・2 級以上・Ｉ類又は特類・厚み 12㎜ を使用。	

5.設計・施工

・構造用合板に穴を開ける場合、一箇所の壁に 3 箇所以上開けない。・合板受桟を切り欠かない。・穴の大きさは内径 150㎜ 以内（四角い場合は対角線寸法）。・穴同士は 200㎜ 以上離す。 ・構造用合板の縁から 100㎜以上離す。	

6.設計・施工

・壁の中央に間柱がある場合は合板受桟を勝たせ、干渉部分は間柱を切り欠き加工し、本補強施工と繋げない。	

7. 設計・施工

・合板受桟は重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断したり継ぎ足すことは絶対に行わない。	

8. 施工

・GD ビスは、頭がめり込まないよう施工して下さい。	

9. 施工

・真壁・入隅仕様の縦受材を付けるジョイテクトL130 は、柱上部ビス（ジョイテクトL90）を兼用するため縦受桟を取付ける柱には、柱上部ビスは打込みません。（部材不足になる為注意して下さい）	

10.確認

グランデータ・ドラゴン・ウォール工法　耐震改修設計・施工説明書を読み、設計・施工方法を理解しました。	

上記注意事項等を厳守し、マニュアルに従って設計・施工いたします。　令和　　年　　月　　日

フリガナ
会社名　：　　役職/部署：

フリガナ
氏　名　：　　生年月日　：S・H　　年　　月　　日

会社住所：〒　　－

会社電話：　　－　　－　　会社 FAX：　　－　　－　　携帯：　　－　　－

送付先ＦＡＸ：０４２－５２３－７８１６

ご質問等は、メール又はＦＡＸにてお願いします：ｉｎｆｏ@ｇｒａｎｄａｔａ．ｃｏ．ｊｐ